

連載：原点

「数学は楽しい？」

幕張総合高等学校 増山 正和

—経緯—

数学の免許を取得したのは、情報科の私が取得しやすかったからで、取得した理由も、仲間と違うことをしたかったというだけでした。そして、一度は専攻していたプログラマーになりました。

そこでがむしゃらに働き、思うところがあり仕事を辞めました。その後偶然、千葉県情報化推進コーディネーターという職に就いたことで、教える喜びに触れてしまったのです。

これがきっかけで私は数学科教員を目指すようになり、現在、幕張総合高等学校に勤務するに至ります。

—数学について—

このような経緯で数学科教員になったものですから、本来数学が得意だった訳ではありません。高校時代は、センター試験の一番の高得点は国語という有様でした。

とはいえ、そんな私だからこそ、分からないという生徒に共感できるのではないかと考えています。高校時代に自分が分からなかった箇所を教えるときには、「自分が何が分からなかったのか」を考え、解法のコツを教えられる授業を目指しています。

しかし、数学自体に「どうせ分からない」という抵抗感がある生徒が多いことに悩んでいます。現在は、地道に努力すれば解ける解法も取り上げ、抵抗感を和らげ、解けたときのスッキリ感を演出することに努めています。

一方、数学的な美しさなど、本来数学が持つ魅力についても伝えられるよう努力していますが、まだ上手く伝わらないようです。しかし幸い、私の周りは授業の工夫などを出し惜しみをせず教えてくれる経験豊富な先輩教員ばかりなので、感謝しつつ学ぶ毎日です。

「数学が楽しい」そう言われるよう、努力を続けるつもりです。

「いつも笑顔で」

県立柏高等学校 阿曾 雅泰

昨年度、千葉市立轟町中学校の非常勤講師、千葉市教育センターの家庭訪問相談員、千葉大学教育学部の非常勤講師を経て、この4月に念願の高校教師になりました。日々授業の準備と部活動の指導に追われておりますが、教科指導の先生、同僚の先生方からの温かいご指導により仕事も順調に進み、充実した時間を過ごすことが出来ています。何といっても生徒のためと思うと授業の準備にも、部活動の指導にも時間を忘れて一生懸命になれます。本当に教師になることができてよかったです。

さて、私が教師になってからいつも心掛けているのは、生徒に笑顔で接するという事です。笑顔には何か不思議な力があるように思います。例えば、授業で教室に入るときも笑顔で入っていくと、明るい雰囲気のまま授業が進みますが、暗い顔で入っていくと授業の雰囲気も湿った感じになります。さらには、何か困っている生徒に「どうしたの?」と聞くときも、笑顔のときとそうでないときでは、生徒の反応が全く違ったものになります。生徒はこちらの表情をよく見ています。仕事がたまっているとき、苛々しているとき、自分に余裕が無いときは笑顔が無くなりがちですが、生徒と廊下などですれ違うときにはもちろん笑顔で挨拶します。そうすると生徒も笑顔で挨拶してくれます。この瞬間がとてもうれしいです。

一人でも多くの生徒が明るく楽しい学校生活を送ることができるように、これからも笑顔で精一杯頑張りたいと思います。

「今に至るまで」

柏陵高等学校 渡邊 崇宏

3月まで学生をしていました。今年度4月から柏陵高等学校に勤務しています。講師歴は一切ありません。まっさらな状態であり、0からのスタートです。

私が教師を目指したきっかけは中学生の時です。中学校で教わっていた数学の先生に恵まれ、数学の楽しさに惹かれていきました。はっきりと教師を目指そうと思ったのは高等学校に進学してからです。中学校の時と同様に、数学の授業ではより深い内容に進んでいき、ますます数学にのめり込んでいきました。数学が好きだったので、周囲に授業内容が解らない友達がいたときは率先してサポートしていました。このとき数学を教える楽しさを知ったのです。一度知ってしまったこの感覚からは離れられないと思い、教師を目指しました。

1学期を過ごし、生活リズムや学校の雰囲気にも慣れてきました。1学期には目につかなかったことにも注意が向くようになりました。しかし、課題は山積みであるというのが現実です。気を落としている反面、毎日生徒との会話や授業を通じて楽しく過ごしています。すべての課題を同時にクリアすることは難しいので、確実に一つひとつ積み重ねていきたいと思っています。

教師1年目。焦らず急がず着実に理想とする教師に近づいていくため、日々様々なことを勉強していきたいと思っています。

「生徒と一緒に」

船橋豊富高等学校 川崎 健一

—はじめに—

小学校の頃、よく友達に勉強を教えていて、その頃から漠然と教えることに楽しみを覚えていました。教師になりたいと強く感じたのは私が高校のときで、授業、部活動ともに

熱心に指導していただいた先生のおかげです。特に部活動で丁寧に指導していただき、高校から始めた競技でいい成績を残すことができました。

—講師時代の経験—

私は大学卒業後、他県の私立高校と県内の高校で講師を1年ずつ経験してきました。私立高校は部活動に力を入れている高校で、生徒たちも部活動に一生懸命で、そんな生徒たちのがんばりをサポートすること、指導すること、ときには生徒に混じって活動することにとってもやりがいを感じていました。教科指導では、私立高校、県内の高校ともに、大半が数学は苦手だという生徒を対象に授業を行いました。生徒は集中して取り組むのが難しいという状況でしたが、簡単なゲームなどを生徒と一緒に行うことで、生徒が授業に耳を傾け、真剣に机に向かう姿が多少増えたのではないかと思います。そしてそんな生徒たちからときどき出てくる「わかった」、「できたよ」と喜んでいる姿に、こちらもうれしく感じていました。

—これから—

現在は船橋豊富高校で今まで経験のない教科情報を担当し、生徒と一緒に学んでいる最中です。生徒から質問があればわかる範囲で答えたり、私が知らない技術を生徒が教えてくれたりしています。数学では集中して話を聞けない、ノートを書かない、すぐおしゃべりを始める、わからなくなると質問もせず止まってしまうなど、さまざまな生徒がいます。これから先もずっと出会うであろうそんな生徒たちへの対応として、教材、指導方法の研究により一層力を入れていくとともに、生徒とのメリハリのある関係作りを念頭に置き、生徒と一緒に考え、生徒と一緒に活動していこうと思います。

「子供たちの将来に対して」

沼南高柳高等学校 能登 章人

—はじめに—

私のこれまでの経緯としては民間(商社)で4年、小学校講師を2年しておりました。数年間外で働いた後で教員の道へと考え、就職。そこではコンピュータの営業を行い、多くの顧客と取引を行っておりました。しかし海外製品の為、時差の関係上不眠不休になる日もあり、毎日を忙しく動いておりました。ある程度仕事にも目処がつき、仕事を辞め講師を経て、現在4月から沼南高柳高等学校に勤務しております。

—想い—

教師という職業は大学4年まで私の職業選択の中にはありませんでした。それを打ち崩す出来事というのは、ありがちかもしれませんが教育実習です。

実習に行った際に、子供たちの元気に圧倒されることもありましたが、毎日が楽しく、しかも正直な反応がダイレクトに返ってくる。こんなおもしろい仕事はないなと思い、教員の道に進みたいと考えるようになりました。それから、その時の自分・将来の自分に対して足りないもの・必要なものは何かと考え、民間へまず行こうとムチを打ってみました。

この選択が正解か間違いかはわかりません。しかし、生徒たちは将来世間に出て行くわけですから、数学以外にも伝えられることがあるということは私の財産になると思っています。

－現実と課題－

勤務校の実態としては算数を理解できていない生徒がおり、また「数学って役に立つの？」と疑問を投げかける生徒も少なからずおります。スタートラインがそのような状態なので、もっと時間数が欲しいというのが実感です。ですが、わかりやすい授業というのを心がけざるを得ないので、将来の自分・今の生徒・これからの生徒にとって良い経験をさせて頂いてるのかもしれません。ある意味生徒自身も苦しんでいるのかもしれないので、初心を忘れずやっています。

無題

野田中央高等学校 松本 美保

「大学へ行くと4次元、5次元もやるんだよ」「球面に三角形を描いたら内角の和は何度になると思う？」中学の恩師の言葉。高校で中間値の定理を証明していた。最大値最小値原理がでてきて、「この証明は大学に行かないとできない」と言われた。何気ない恩師の一言が、数学への興味を膨らませてくれた。

高校のクラスの友人に数学を教えたことがあった。「わかったー」と嬉しそうな顔を見ると自分も嬉しかった。教えることが好きになった。自然と数学の教員を目指していた。

自分は上手く教えられるという根拠のない自信があった。教育実習で見事に自信はなくなった。指導力不足だった。授業は、受けたいと思っている生徒ばかりが相手ではない、数学なんてつまらない、勉強する意味はない、と思っている生徒も相手にしなければならない。いかに知りたい、わかりたいと思わせるかが大事なことだった。教育実習を境に、ネタ集めを始めた。数学が身近に使われている例。数学の歴史。中高生向けの数学の本も読むようになった。

4月から野田中央高校で教えることになった。私語が多く授業を進めることが難しかった。魅力ある授業をするために日々努力していく。それと同時に、魅力ある人間になる必要性も感じた。学校は教科指導と共に、人生で大切な何かを学ぶところなのだと最近になってようやく気づいた。忘れ物をしない。時間を守る。あいさつをする。相手の気持を考える。意見を言う。素直に謝る。お礼を言う。自分が生徒になって欲しいと思っている人間に、自分はなっているか。まず自分が魅力ある人間になることから始めたい。